

⑱ 地域特性に応じた新たな移動の仕組みの創出

メンバー

実施者：兵庫県 豊岡市（都市整備課）
連携団体：竹野地域公共交通利用促進委員会、全但バス（株）、たけの観光協会、近畿大学経済学部（新井准教授）、（株）ポリス・セクターズ・オイス

活動目的

- 豊岡市竹野地域は多数の観光客が来訪する地域にも関わらず、二次交通が整備できていなかったが、新たに観光客向けのシャトルバスを運行することにより、地域の魅力向上を目指す。
- 市営バスが抱えるドライバー不足、運行ロス等の課題に対し、地域住民のドライバー起用、ITを活用した運行管理等を行い、課題解決を図りながら、より持続可能性のある公共交通の構築を目指す。

対象地域：
兵庫県豊岡市竹野町
人口：4,496人
※2015年国勢調査



取り組み内容

キーワード：観光利用／地域ドライバー／IT活用／遊休車両の活用

- ①実証運行・アンケート調査：観光客の需要が明らかとなり、観光客向けシャトルバス導入を決定。
- ②ドライバー確保：地域住民よりドライバーを募集し、6名確保。大臣認定講習含め、必要な研修実施。
- ③運行ロスの解消：IT点呼体制整備・車両保管場所整備により、管理者移動・バス回送のロスを解消。
- ④遊休資産の活用：地元法人の所有する車両を市営バスとしても使用。さらに、利便性向上、イメージアップのため、ベンチシート導入等の車両改造やラッピングを実施。



2020年度の活動実績

- ①夏季シャトルバスの運行：2020年7月11日～8月23日の土日祝日に運行。利用者数209人。
コロナの影響により一部運行計画を変更したが、一定の観光需要が確認できた。
- ②車両改造：地元法人から提供を受けている車両のベンチシート導入、荷物置き場設置等の車両改造実施。

取り組みが地域に与えた影響

専門家ネット_グローカ交流推進機構

- ・第12期運行（2019.10.1～2020.9.30）の利用者数について、一般利用は前期比165人減であったが、観光利用の209人を加味すると、全体では前期比44人増となった。
- ・地域住民のドライバー起用により、地域の当事者意識、問題意識が高まった。結果として、2021年4月より、一部デマンド運行を導入する等、需要に応じた運行計画の変更を行うこととなった。
- ・地元法人の所有する車両を使用することで、市がバス1台分購入するコストを抑えることができた。
- ・車両を地元の認定こども園の園児が描いた絵でラッピングし、市営バスのイメージアップに繋がった。

行政や事業者だけではなく、地域住民や観光協会がドライバー業務への従事や路線・ダイヤの企画などに主体的に関わることで、市営バスの継続性を大いに高め、新たな選択肢を示した好事例。

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

地域の公共交通に対する意識の高さや観光業を中心とした生業など地域特性を發揮している仕組みです。住民だけでなく、観光客も使える仕組みで、今後竹野地域内外の交流促進にますます活用されることが期待されます。

豊岡市竹野地域は、過去より多数の観光客が訪れており、さらに、民宿等の観光事業者にアイドルタイムのある大型免許を持った方や遊休車両があるとの想定から、地元協議・アンケート調査・実証運行等により需要を確認したうえで、今回の取り組みに至った。当たり前のことだが、現状把握と需要確認をしっかりと行ったうえで、実効性のある取り組みを行うことにより実現できたと考えている。また、今後についても常に改善意識を持ちながら、持続可能性を高める取り組みを継続していくことが重要であると考えている。